

海域の概要

本湾は、砂嘴である野付半島によって根室湾と隔てられた内湾です。湾内は水深が大変浅くなっています。夏と秋には、打瀬舟を用いた北海イシマエビ漁が行われています。



Specification

諸元

湾口幅：4 3 3 km

面積：5 7 km²

湾内最大水深：4.3 m

湾口最大水深：4 m

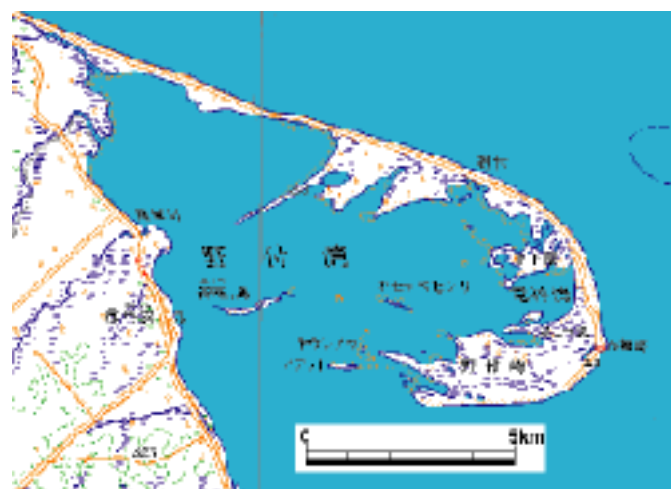
閉鎖度指標：1 8 7

備考：なし

Location

範囲または位置

北海道野付郡別海町野付埼南西端と同町戸川河口右岸を結ぶ線及び陸岸により囲まれた海域。



環境

野付湾は湾口を根室海峡に開いている湾で、沖合に千島海流（親潮）の分岐流が流れています。気候は冬季湿潤寒冷型で、春季・夏季には北東風や南東風によって海霧が来襲し、霧日数は大変多く、気温は親潮の影響を受けているため、北海道でも一番低くなります。

湾岸には、大きな部落や街がなく、小河川が数本流入するのみですので、水質は良好状態にあると思われまます。

自然

野付湾は、オホーツク海に突き出た釣針状の延長 8 km に及び日本最大の砂嘴（さし）である野付半島によって形成されています。この半島は野付水道を流れる海流が運んできた砂が堆積してきたもので、半島の標高はどこをとってもわずか数 m しかありません。

半島の大部分は砂浜草原と湿地原であり、岬部分がかつて一面樹齢 300 年の原生林であった面影をもち、トド松、エゾ松を始めカンバ類、檜などの大木が繁っています。トドワラは、トド松の森が海水におかさされ、風化した白い木肌の巨木が乱立する奇観の地です。

湾内には、広大なアマモ場が発達し、重要な漁業資源でもある、北海シマエビの生息場となっています。

半島のトドワラ入り口から灯台にかけて展開する 20 ha の草湿原には 6 月頃からクロユリ、センダイハギ、イソツツジが咲き始め、続いて、ワタスゲ、ショウブ、アヤメ、ハマナスなどの群生と 9 月まで各種の草花が白、黄、紫、ピンクと多彩に咲き乱れ、半島全体が「原生花園」となります。



トドワラのトドマツ

文化歴史

野付とはアイヌ語であごの意味で、半島の先端が陸地側に向かって大きく湾曲しているのが「人のあご」に似ているところから名付けられています。

産業

6 月初めから 8 月中旬までと、9 月中旬から 11 月末までの夏と秋の 2 回にわたって行われる、打瀬舟による独特な北海シマエビ漁は、三角帆に風を受けて、ゆらりゆらりとただよう打瀬舟による漁法で、野付湾の代表的な風物詩となっています。この漁法は「小型低引網漁業」の一種で、資源の保護のために漁期を定めています。

尾岱沼温泉は野付湾を望み、左遠方には国後島までを望むことができる観光地となっています。



打瀬船